

キーパーソンインタビュー

ミヤコシ 専務取締役 宮腰亨 インタビュー

IJ ビジネスで裾野拡大 - UV と白インキで軟包装分野へ -

3.11 の震災では、弊社は被災した地域に近い秋田に工場があり、スタッフもいて被災したところへの人的支援も含め、迅速に対応してきました。

電力供給の制度から節電対策に取り組み、工場は勤務を早朝と深夜のシフト制を導入し、本社においては室内温度を 28 度に設定したほか、エレベーターやパソコンの節電、また電力計を各部署に設置するなど電気の使用状況の“見える化”を行なう等の取り組みにより、電気使用量を約 30%削減することができました。

ところで、去年は印刷業界全体が厳しい状況で推移してきたといえます。オフ輪や BF 等の印刷機は国内も、海外も厳しく、さらに円高によって競争はより激化しています。そうした中で、弊社においては、デジタルオンデマンドプリンタービジネスが、大きく成長し、そのウエートもほぼ半分を占めるまでになり、それが奏功して前期に比べ若干の減収でとどまり、売り上げもほぼ前年並みで落ち着くものと見ています。

フルカラーインクジェットプリンター(IJP)「MJP シリーズ」には、水性染料(もしくは顔料)仕様と UV 仕様がありますが、市場で評価されけん引役にもなったのが水性仕様で、数字としては大きいです。

昨年 IGAS で発表した「MJP シリーズ」では、まず水性仕様においては CMYK に特色 2 色の計 6 色対応のフルカラープリンター、UV 仕様ではフィルム基材をターゲットにして、白インキも対応できるプリンターには注目していただきました。

実は、この白インキに対応できるとして、パッケージ印刷の業界から注目を集め始めているところです。しかも毎分 100m で印刷できることから、ロール to ロールのほぼ生産機に近い機種としての評価も頂いています。

さらに今回は LED-UV 仕様での提案でしたから、熱の影響を受けやすいフィルムにも印刷ができるという特長や、弊社の BF やトラベル印刷加工で培った各種仕上げ加工技術にも理解を示していただき、フィルム・軟包装業界の方々、紙器・パッケージ印刷業界の方々からも高く評価をいただいているところです。

2012 年は drupa への出展を考えており、印刷業界で何ができるのか、またオンデマンドプリンターでの新規ビジネスのソリューションを提案していきたい。特に、UV・IJP ビジネスの拡大のターゲットとして、軟包装分野やカートン印刷分野で活躍の場を作っていきたいと考えております。

(2012 年 01 月 09 日 包装タイムス 掲載)